成績の上がる勉強のポイント
【総論 1/1】

まずこれから話す話は、あくまでも努力しても努力しても、成績が上がらない人に向けたアプローチ方法であり、もともとできる人にはしつこく感じる話になるかもしれないことをわかってほしい。

医者になってから「先生はどうやって医学部に入ったのですか？」
こう聞かれることがとても多い。

実際自分が学生で医学部を目指していた時にいつも自分で思っていたことだ。
なんでみんな医学部に行けるんだ？？？これに対する回答はとてもシンプルだ。
問題は非常にシンプル。

試験に通れば医学部に行ける。試験に通るためには試験問題が解ければ受かる。
でも実際には、この試験問題が難しくて解けない。
『解く』ということがそもそもわかっていない。それは教える側も教わる側もだ。

『解く』ということについて話をする前にまずは、世間一般のアプローチ方法を見直してみよう。
世間一般の方法は簡単にいうと慣れのアプローチだ。

慣れのアプローチは勉強時間をたくさんかけて、たくさん問題をやるアプローチだ。
できる人って実際にたくさん勉強をしているし、
時間をかけて継続して上がっているように見えるが、実はそれだけではない。

どうしてもその表面的なものだけをみて判断してしまうがそれだけではない。
じゃあ何が違うのか？ここに視点を当てていかないといけない。

実際やってみるとわかるけど、成績は単純に量×反復だけでは上がらない。
これは正確ではないか…ある程度しか上がらない。
そしてすぐに頭打ちになる。そして変な勘違いだけが身についてしまう。

この量×回数のアプローチそのものには疑問を抱かずに、努力が足りないから成績が上がらないと思ってしまう
（ある程度そのアプローチで成績が上がったという実績があるから…）という勘違いが身についてしまう。

量×回数のアプローチは基本は、暗記分野や計算などの慣れの分野でのアプローチだ。
もしくはある程度問題へのアプローチがわかってから、その自分の手に入れた武器を磨く時に必要になるアプローチだ。

まずは一度原点に戻り問題を『解く』ということを考えてみないといけない。
受験において出題者側は誰でも解けるような問題を出題してくることはない。
あくまで試験は選別をするために行うので必ず一工夫してくる。この一工夫を見抜かないといけない。

© CORE ALL RIGHTS RESERVED.

成績の上がる勉強のポイント
【総論 1/2】

問題は解けるように作らないといけないが、みんなが誰でも解けては意味がない。
なので気づく人だけ解けるような形に持ってくる。その観点で考えていくと、ポイントは
まず第一段階として問題文の中に隠されたヒントに気づかないといけない。

次に気づいたヒントを元に問題を解く上で解答を作成していく流れを作れる能力を磨いていかないといけない。
この流れは国語英語などの文系科目でも数学理科などの理系科目でも同じ流れとなる。
この解答作成時の代表的な思考の流れが論理思考というものだ。
他にも受験を通して、仮説思考や確率思考など身につけるべき思考は多くある。

では問題を解くために問題に隠されたヒントを見抜くためにはどうしたらいいか？

ヒントを見抜くためには、ヒントを見抜くための知識が必要となる。その知識を押さえないといけない。
ただここで一つの問題がある。それはその必要な知識は単純に教科書参考書を読んでも手に入らないということだ。

公式などの教科書に載っていて誰でも手に入る知識を表のルールとする。
もう一つは誰でも手に入るわけではない知識これを裏のルールとする。

この二つの知識がヒントを見抜く上で必要となる。

まず問題を解く上でこうした知識が必要になることを押さえていない人が多すぎる。
やみくもに勉強をしても成績は上がらない。
そして、この知識を押さえた後に解答の作成を行なっていく。
これに必要な力として論理思考能力がある。
よく受験で身につくと言われている代表的な思考能力だ。

受験で身につく思考能力は何も論理思考だけでなく仮説思考、確率思考、
逆もまた真ではないという考え方などいろいろな考え方が身につく。

授業自体にも問題点が多い。解答の解説をする先生がとても多い。
もしくは自分は何万問も解いてきているためなんとなく根拠もなく自然に解けてしまう人がたくさんいるが、
実際に問題文からきちんと解答を出している先生が非常に少ないことだ。
つまり問題文→解答の一行目を根拠を持って提示できる人が少ない。

僕たちは問題文しか与えられていない。
解答も知らないし、何万問もといていない。その中で解いていかないといけないのだ。
問題を解くために問題文のヒントを見つけないといけない。
そのために知識を身につける。それが表のルールと裏のルールだ。

© CORE ALL RIGHTS RESERVED.

CORE
受験対策塾 | コア

成績の上がる勉強のポイント
【総論 1/3】

表のルールは参考書から得られるもの。

裏のルールは一工夫必要。類題をうまく使う必要がある。
ルールは発動条件も一緒に押さえること。

どのヒントでどのルールが使えるのかきちんと押さえていかないといけない。
そして解答の作成のための思考力養成。

相手に伝えるための話の流れを常に考える。因果関係の飛躍をなくす訓練をしていく。
この因果関係を磨くことがプレゼンの練習につながる。

こうした意識を持って問題に取り組んだり、
どの先生に習うかなどの参考にしてもらうといいと思う。

⇓

成績の上がる勉強のポイント

【理系編】PDF 閲覧はこちら ≫

当塾では「メール」での「お問合せ」を受け付けております。
お気軽にご質問、ご相談ください。

メールはこちら ≫

© CORE ALL RIGHTS RESERVED.